

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100636		
法人名	(有)ファクトリー		
事業所名	グループホーム朋楽		
所在地	高知市はりまや町3丁目16-8		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成23年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ひとりのために、みんなのために」という法人理念のもと、入居者一人ひとりの今までの暮らしや、これまでの生活の歴史を大切に、当たり前の生活を当たり前として過ごせる環境づくりを、地域の方々や家族の皆さんと共に支え合いながら取り組んでいくことを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3970100636&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年10月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は商業地域に立地しているが、毎週水曜日に1階ホールで開催される「かみかみ・いきいき百歳体操」やその後催している茶話会を通じて、利用者と参加者の交流を深めている。また、近くの神社の清掃活動への参加や神社と事業所の夏祭りを一緒に実施するなど、地域との関わりを深め、地域住民とは日常的に挨拶を交わしている。一方、地域包括支援センターを中心としたグループホーム連絡会では事業所間で情報交換を行いサービスの質の向上に活かすとともに、職員は理念に沿って一人ひとりの思いを大切にその人らしい生活ができるよう支援するなど、地域に根ざした利用者本位の事業所としての発展が期待される。

自己評価および外部評価結果

グループホーム 朋楽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりのために、みんなのために」という法人の理念のもと、事業所独自の理念を作成し、一人ひとりが助け合うためにチームワークを図り、地域に溶け込み「敷居の高くない暮らし」を支援するよう日々努めている。	事業所独自の理念があり、職員会で意識付けを行うとともに、職員はこれを常に念頭に置き一人ひとりの思いやその人らしさを大切に、日頃の言葉かけなど、その都度話し合いながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の八幡様に散歩に行ったり、清掃活動に参加するなど、地域の方々と触れ合う機会を設けるよう努めている。また、毎年事業所で法人全体の夏祭りを開催し、地域の方を招待したり、出店の協力をもらうなど交流している。	神社の清掃活動に参加したり、日々の散歩を通して近隣住民と顔見知りになり、日常的な挨拶や野菜のお裾分けをもらったりしている。事業所の夏祭りに地域の方に無料招待チケットを配布したり、出店の協力もあるなど、地域との触れ合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週水曜日に、入居者と地域の方々と一緒に噛み噛み・いきいき百歳体操を行い、その後茶話会を催して歓談しながら、感染症や認知症予防等の話しも交え、認知症の理解と事業所に親しんでもらうように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの運営や入所者の状況、サービスの実際や日々の支援内容等の報告を行いながら、意見や情報等を頂き、可能な限り改善、実行するよう努めている。	事業所から、日常生活場面などの取り組み状況や評価結果の報告を行い、家族や地域代表などの参加委員から活発な意見が出され、できることから改善に取り組むなど、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは必要に応じ、入所者の支援に必要な知識や技術について電話連絡や訪問依頼等を行いながら協力関係を築けるよう取り組んでいる。	地域包括支援センターには、運営推進会議やグループホーム連絡会などを通じて利用者ケアの相談をしたり、市の担当課から口腔ケアについての指導、助言をもらうなど、必要に応じ協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員に正しく理解してもらうよう徹底し、建物1階入口は7:00~20:00までは施錠せず、ホーム玄関は24時間施錠していない。また、居室は利用者本人が施錠する場合を除き鍵はかけないようにするなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する外部研修に参加し、内部で伝達講習を行い職員の理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。外出傾向のある利用者を把握しており、さりげない声かけの工夫や常に人数の確認をしている。日中は玄関に施錠をせず、見守り支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、内部で伝達研修を行う等、高齢者虐待防止法に関する理解や浸透を図り、遵守に向けた取り組みに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者の中にはすでに成年後見制度を利用している方もおり、今後も利用が必要となれば支援できる程度の理解、体制は整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人、ご家族の不安や疑問点を的確に把握し、解消できるような説明を心がけている。また、法人理念やケアに関する考え方、取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲についてもわかりやすく説明することで、契約内容について理解、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対しては常日頃から、その言動を通してその思いを察し、対応している。家族の来訪時は職員から積極的に話しかけることにより不安や不満を解消できるように心がけ、全体としては定期的に開催している家族会を通じて、意見や要望を頂きながら改善、実行に努めている。	家族会は定期的で開催し、概ね6～8人の出席があり家族同士で気軽に意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。日頃の面会時も意見等を聞くように努め、意見や要望があれば職員で話し合い対応の内容や結果についても玄関に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の要望や意見を聞くように心がけるとともに、定期的に職員会を行い、意見や提案を聞いている。また、リーダー会では職員会での意見等について報告し、法人全体として検討、改善するように努めている。	管理者は職員会や日頃の話し合いの機会を捉えて意見や要望を聞くよう心がけている。出された提案等は、法人の代表者や各ユニットの代表も参加するリーダー会で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員のモチベーションを維持、向上させるために、外部研修等への参加や資格取得に対する支援をしている。また、各職員の努力や意見はできるだけ尊重し、意見交換しやすい職場づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会や研修会には計画的になるべく多くの職員が受講できるように配慮している。報告書を全職員で閲覧したり、伝達講習を可能な限り開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し同業者との情報交換等行いながら交流を深めている。また、外部研修等を通し同業者との交流を深めながら、情報収集や提供を行いお互いに支援の実践に活かせるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて、生活歴等の情報やご本人の思いを把握するように努め、ご本人の不安を少しでも解消して安心して入居して頂けるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて、ご家族が今何に困っているのか、不安に思っていることは何かなど、的確に把握し、ご家族の不安を少しでも解消し、家族の入居に納得して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身状態や生活状況、ご家族の思い等を把握し、必要としている支援を見極めるよう努めている。また、必要に応じて地域包括支援センターや他の介護サービス事業所と連携し、ご本人にとってより適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の掃除や調理など、日常の生活作業を共に行い、時には料理の方法や、味付けなど職員が教えてもらったりしている。また、折に触れ会話の中で、昔の暮らしの様子や生活を教えてもらうなど、共に学び、支え合う関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況等に配慮しながら、できるだけ来訪してもらう機会の確保や、来訪しやすい環境づくりに取り組むとともに、入居者の日々の暮らしや身体状態について必要に応じて報告したり相談しながら、良好な関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前の住居の近所の方の来訪時には歓談しやすい雰囲気づくりを心がけ、時には職員も短時間会話に参加させてもらったり、またの来訪をさりげなく談話の中で依頼したりしている。	友人、知人の来訪があり、次の訪問を依頼するなど、関係が途切れないよう支援している。また、家族の協力も得て、思い出の場所や墓参りなどにも出かけるなど、関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等、関係の把握に努めている。共同生活であり多少の口喧嘩等は見守りながらタイミングを見計らい仲裁に入るように心がけ、孤立しないよう利用者同士が気持ちよく共同生活を送って頂けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族に運営推進会に家族OBとして参加してもらったり、事業所としてできる範囲で相談に応じたり、情報提供するなど支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の希望や要望、意向の把握に努め、可能な限りその思いに沿えるよう支援している。意思疎通の困難な方についても、本人の状態や言動を通し、思いを汲み取り対応している。	日頃のさりげない会話の中で、個別に希望や意向の把握に努め、可能な限りその思いに沿うよう支援している。意思疎通の困難な利用者は、表情や仕草から推察したり、家族の協力も得ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の日常の何気ない会話からも、生活歴や馴染みの暮らし方等を把握するよう努めている。また、家族や友人等の来訪時にも談話の中でこれまでの本人の生活等が把握できるよう職員から積極的に話しかけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、本人の身体状態や精神状態を把握し、職員間で情報の伝達、共有をしながら総合的に判断し、その状態等に応じた支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の身体や精神状態はもとより、できること、できないこと、したいこと、したくないこと等を把握し、課題を抽出しながら職員全員で話し合い、家族の思いを反映させた介護計画の作成に努めている。	職員の担当制により、利用者、家族の希望を聞き、アセスメントやモニタリングを行い、職員全員で話し合い介護計画を作成している。計画の期間は短期3カ月、長期6カ月を基本とし、毎月評価してその都度状態に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量等の各チェック表や、個別支援経過、支援の実施状況等の記録、職員間の連絡ノートを通じ、情報の伝達と共有に努め、介護計画の見直しの判断材料として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法令を遵守しながら、入居者にとって「施設」ではなく「家」として生活を送ってもらえるように配慮し、その時々必要と思われる支援については柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内だけが生活の場とならないよう、入居者一人ひとりの地域資源を活用できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回は内科、心療内科の往診があり、入居者の身体や精神状態、支援経過について説明している。また、家族に対して必要に応じ往診時の報告や薬の追加、変更等について報告し、共有している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。通院介助は家族の対応を基本としているが、家族の都合によっては職員が対応し、受診結果についても、連絡し合い情報を共有している。協力医療機関から内科医の往診が月2回ある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に入居者の状態変化について24時間報告、指示を受けるようにしており、日頃から入居者の身体や精神状態について情報の伝達、共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、可能な限り職員や他の利用者も見舞いに行くようにしている。家族とも相談しながら病状把握や退院前カンファレンスなど医療ソーシャルワーカーと連携を図り、退院後の生活に支障を来さないよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針をもとに、本人や家族の意向を汲み取りながら、個々の状態等に合わせ医師、看護師との話し合い、本人、家族の望む支援に可能な限り対応できるよう努めたいと考えている。	入居時や家族会で、看取りに関する方針を説明し、同意を得ている。利用者、家族の意向に沿って、医療機関とも連携し、納得した終末期を迎えられるよう支援する体制はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員、看護師等による内部研修やマニュアルを活用し実践力をつけ、必要時に全職員が適切に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って、年に数回は避難訓練を行い、避難経路や手順の確認を行っている。地域住民との合同訓練の実施には至っていないものの、日々の交流を通じて、お互いに助け合える関係づくりに努めている。	避難訓練は年2回実施している。地域住民にも知らせているが、今のところ参加、協力は得られていない。スプリンクラーの設置や非常用食料の準備はできている。	災害時には地域住民の協力は不可欠であり、今後も運営推進会議を通じて協力を呼びかけたり、地域の防災活動の情報なども収集しながら、災害対策に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常日頃から、入居者の心に届く心地よい言葉がけを心がけ、声色や語尾などで本人の尊厳を傷つけないように配慮し、排泄支援等についても尊厳を意識した対応をしている。	理念に沿って利用者一人ひとりを尊重し、日々のケアの場面での声かけなどに配慮し、利用者の誇りを損なわないよう、職員は相互に気をつけ合いながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活において、できる限り本人に選択、決定してもらうよう、場面設定や声かけを行いながら、生活作業や活動参加の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のホームの大まかな流れはあるが、それにとらわれることなく、一人ひとりの体調や意向に配慮しながら、個性を尊重した支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等の衣類を選んでもらったり、日々の生活の中で本人が好む色や柄を把握し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど、個々のできる力に応じた作業を職員と共にしながら、楽しく食事をしている。	献立づくりから調理、片付けまで、利用者の経験や能力に応じて声かけをしながら職員と一緒にやっている。職員は利用者と同じものを食べ必要に応じて介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は日々チェックし、必要量が確保できるように支援している。また、本人の状況、状態等に応じて食事形態や内容、配膳の位置などに工夫しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔、義歯の清潔が保たれるように、個人の能力、その日の状態に応じて支援している。また、家族にも必要に応じて歯科受診や義歯の作り替えなど依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ケアの際は、特に本人の尊厳を傷つけない支援を心がけている。また、個人の能力に合わせながらも、できる限り自立を意識した支援をしている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりの状況に応じた声かけにより、できるだけトイレで排泄するよう支援している。排泄失敗時には、清拭やシャワー浴により清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無、状態等について、可能な限り把握しながら、水分や食事、運動等の調整を行い、良便が得られるよう支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に午後の時間帯を設定しているが、入居者のその日、その時の状態や状況、気持ちに沿って入浴支援をしている。	入浴前には検温し、希望者には毎日入浴できるようにしている。現在、入浴拒否者はおらず、概ね週3回の入浴ができています。夏季は毎日シャワー浴の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整え、活動量を維持し、体調や表情等に注意し個々の状況等に応じて午睡するようにしている。また、夕方から就寝にむけて穏やかな時間を過ごしてもらうよう環境づくりに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容等は個人毎のファイルに保管していつでも閲覧、確認できるようにしている。薬の保管場所や配薬時の確認等には特に気をつけている。また、本人の心身状態や内服薬の追加、変更については、常に看護師を含む全職員が情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や強み、好み、趣味、特技等を活かした個別性のある取り組みを生活作業や活動にも活かしながら支援している。また、日に1回は気分転換や運動を兼ねた外出(散歩)を行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と共に、散歩や買い物、ドライブ等何らかの形で屋外に出かけるようにしている。また、季節感を感じてもらおう外出支援や行事計画を立て、家族や友人の参加も呼びかけながら支援している。	4～5人のグループで、午前、午後とに分けて事業所周辺を散歩したり、ドライブがてら近くの量販店や良心市、日曜市などに買い物に出かけている。また、季節毎の花見や行楽など、外気に触れる機会をつくっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っているが、小額の個人の買い物等については、本人と共に出かけ、能力に応じて金銭の所持や支払い等が円滑にできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等から電話や手紙が届くと、本人に取り継ぎ、状況に応じて代読したり、代筆するなど、交流が途絶えることのないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の光彩、温度、環境の保持、整理整頓には気を配り、季節に応じた花を活けたり、雛人形や七夕、クリスマスツリー等の飾りつけをするなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	食堂兼居間には、利用者同士がゆっくり談話できるようにソファ等配置に工夫している。季節の花を活けたり、壁面には共同製作のちぎり絵や折り紙などをさりげなく飾るなど、和みのある居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下にもテーブル、チェアを置き、入居者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。また、食事やレクリエーション等の席位置も特定せず、本人のその日、その時の気分や状態に応じて選んでもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できる限り本人にとって馴染みのある家具等を持ち込んでもらうよう依頼し、自宅で使っていた茶碗やお箸等も持参してもらうようにしている。また、カーテン等の色合いにも配慮し、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるよう工夫している。	使い慣れた家具類を置き、自作の水彩画や写真、カレンダー、ぬいぐるみなどを思い思いに飾りつけ、利用者が安心して家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒予防を常に意識した環境整備を行い、個々の身体機能、状態に応じて、できるだけ自立した生活を阻害することのないように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				